

前回の回答と今回の問題

■ 前回の「ここはどこでしょう」の回答

ここは
どこでしょう

前回の問題の場所はこちらでした。
みなさん、お分かりになりましたか？
すっかり寒くなり、なかなか外に出づらくなり
ましたが、良かったら、この場所を探して
みてはいかがでしょうか。



前回の、ここはどこでしょう
の写真

＊ 前回の答えはここでした

前回の写真は「木津川右岸の鳴子川合流点に位置する開キ浜（開橋の上流）にある大坂城の残石」です。（※残念石と呼ばれています）

大阪の築城史研究会の綿密な調査と検討により加茂町大野浜の石材と、大坂城の石垣の石材が徳川幕府による大坂城再築用の石材であり、藤堂藩採石の残石であることを明らかにされました。

そしてさらに「藤堂家が寛永元年（1624）に構築した石垣に使用されている石材と完全に一致する」ことまで明らかにされ、その石材の石切り場が大野浜の上の大野山にあることも明らかにされました。

この開キ浜の残石は、藤堂藩の『残石帳』に「十ッほうその（祝園）二あり」と記載されていると言われています。

なぜ、木津川の右岸にあるのに左岸の地名「祝園」であらわしたかは明らかでなく、相楽郡の条里の坪付けでは、この付近は左岸も右岸も同一の坪で「祝園」と呼んでいたのも、この当時まで両岸に祝園の地名が残っていたのかもしれないといわれています。

この開キ浜には現在9個の残石が確認されます。数も少なく、銘文も読めるものが少ないため全体の傾向をつかむことは難しいが、石材の大きさ、切り出し方や、銘文の刻み方などは基本的に大野浜のものと同様です。

※残石帳には1623年当時木津川流域に点在した520個の石材の一点ずつの大きさが調べられて書き留められ、そして地点別の個数も書き上げられていました。

掲載資料

「木津川河川敷の大坂城残石」

高橋 美久二

（山城郷土資料館報第8号、京都府立山城郷土資料館 1990.03）

＊ 今回のここはどこでしょう

ここはいったいどこでしょう？
小さなうちから「こんにちは」してます。
精華町のどこにあるんでしょうか。
そして、どうして置いているのかも不思議ですね。

もしお分かりになりましたら、ぜひセンターにお声掛けしてください。

お待ちしております！

